この２年を振り返って　ー　バトンタッチの時期を迎え、CS委員の声を集めました。

（CS委員の任期は2年。4期まで再任が可能です。）

【取り組めたこと】

☆ 「子供たちを健やかに育てる」という目的で、学校も保護者も地域も一丸となって取り組めた。

☆ 多様な人材が集まることでノウハウや気付きや課題を持ち寄り、それぞれの得意を活かして協力しあうことができた。

☆ 話し合うこと（協議）と具体的に活動すること（実働）の両方が大事。これからもそれを大事にしたい。

☆ CS の活動から始まったあいさつ運動はすでに学園全体の取り組みになっている。子供たち、先生、地域が一体になっての活動にはお互いに得るものがある。

【やり残したこと】

☆ CSの活動を知ってもらうことは難しい。まだまだ工夫が必要。

☆ 取り組みはいいけれど、なかなか広がらない。サポーターを増やす工夫が必要。

☆ 初めての取り組みが多く、担当者には負担が大きくなってしまったことを反省。工夫と反省を重ねていきたい。

☆ 「なんの目的で」「誰が」「何をしているか」がまだまだ認知されていない。関心を持っていただけるような周知努力と、「てつだえるかな？」に応えられる体制を。

【次に伝えていきたいこと】

☆ 新しい取り組みには、定着と見直しの繰り返しが必要。

☆ 地域が学校をサポートするのではなく「一緒に考える」ことが重要。

☆ ひとりひとり納得感をもって活動していけることが重要。地域に関われる機会は自分の生きがいにつながっていく。大事にしてほしい。

☆ どんな取り組みでも、常に「子供の声、保護者の声」は聞こえているか？と自問していくこと。

☆ 目的と手段を取り違えないようにしつつ、自分たちにできることに取り組んでほしい。

【やって良かったと思うこと】

☆ （アンケート結果から）子供や保護者の声をきいて、つくづくこの委員会に参加できてよかったと思う。委員会の敷居はたしかにちょっと高いけれど、「楽しい」「やりがいのある」活動だとみんなに伝えたい。自分にとっても「生きる力」になりました。

☆ CSのいいところは、「教育」を学園、学校といっしょに考えていくことができるところ。そういう立場がしっかりしてきた。

☆ 「楽しかった」とみんなに伝えたい。

☆ 委員OBが育って、いい地域人材となっていく。それは、良い地域につながる。

12 月の学園評価アンケートではこんな声を頂きました。ありがとうございます。

☆ CS 委員会の活動の内容をもっとアピールして欲しい。

☆ もう少し子供が大きくなったら力になりたい。

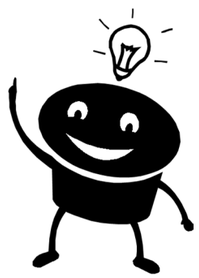
☆ 漢検、異文化体験、メンタルトレーニング、いい取り組みです。

☆ これからも幅広い視野からの取り組みを期待。

☆ 各取り組みについて目的・対象が体系化されているとわかりやすい。

☆ メンタルトレーニング、対象を広げてください。

☆ いつも習い事や部活にぶつかります。開催日に一考を。



鷹南学園

鷹南学園 コミュニティ・スクール委員会だより

平成 26 年度第２号　　発行日：平成 27 年３月 16 日

発行責任者：鷹南学園ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙ委員会　会長　小田切茂美　編集：同委員会広報部

ごあいさつ　ー　２年間の活動を振り返って

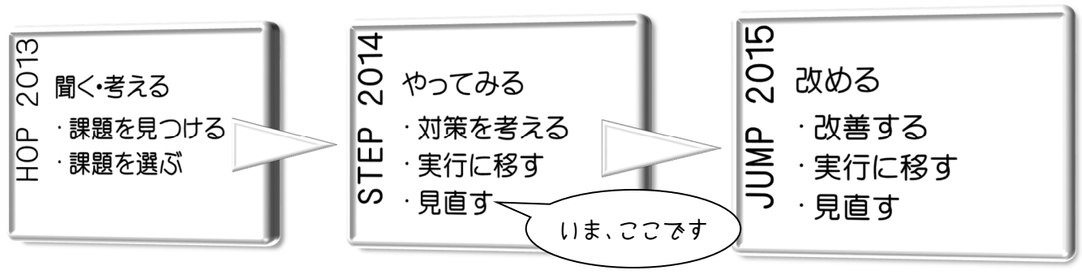
鷹南学園コミュニティ・スクール委員会会長　小田切茂美

この2年間の鷹南学園コミュニティ・スクール委員会は、学園の教育活動に関する方針などについて協議し承認をするという役割を果たしながら、同時に、盛り沢山の活動をして参りました。

始まりは、保護者の皆様に鷹南っ子ジャンプアップ・プラン作成のためのアンケートにご協力頂いたところからでした。その後、学園評価アンケートを経て課題があぶり出され、その解決のために今年度は具体的なアクションを起こして参りました。しかしながらそのアクションの意図が伝わらないとか、CS委員会って何をしているところ…といった声を聞く、ちょっと立ち止まって振り返り学園生のためにできること…何が必要なのか…を考え、保護者の皆様を巻き込みながら一緒に学園を支えていけたらと思っております。

今後もコミュニティ・スクール委員会へのご理解とご協力をお願い致しまして、次年度へバトンを渡したいと思っております。

鷹南っ子ジャンプアップ・プランの今



12 月に行われた学園・学校評価アンケートの選択回答や自由回答で頂いたさまざまな評価、コメント、助言を元に、今年度の反省、取り組みのあり方についての見直しを行っています。どれも即効性のある取り組みではありません。試行錯誤を重ねつつ継続することでじっくりと子供たちの成長につきあっていくものだと考えています。

プログラムの主役は子供たちですが、家庭、地域、学校・学園が助演、脇役、裏方、監督、評価まで、それぞれの立場と得意を活かしてかかわっていくことが重要です。どんな関わり方でもかまいません。子供たちの「生きる力を育む」プログラムに是非ご参加ください。

☆今年度の「生きる力を育むプログラム（はぐプロ）」の報告は中面をご覧ください。

鷹南っ子ジャンプアッププラン2014 レビュー

鷹南っ子「生きる力育みプログラム」 はぐプロ

みんなで漢字検定

友達や家族といっしょに取り組むことを励みにして、自分で目標を立てて学ぶきっかけとなるように、学園会場で漢検を実施しました。
11月に東台小会場で実施された検定には、小・中学生約180人、大人25人がチャレンジ。
〔家族受験は、20組〕

学習習慣の定着

成果 励みになった、声をかけやすくなった、検定が身近になったとの声をいただきました。

課題 どうやって計画的な学習習慣に結びつけるか、継続的な声かけのモデルを示す必要がありました。鷹南スタンダードに基づく学園の教育活動を側面から支える方法の検討も必要です。

バランスの良い体力の向上

成果 気楽に体力作りにとり組んでもらえる場づくりを心がけました。

課題 日常的に「体力作りは楽しく続けられる」と思えるはたらきかけも必要でした。

体力測定フェスタ

8月8日(日)五中で開催される「鷹南祭」に体力測定ブースを設け、楽しいイベントのついでに体力測定。73名の参加がありました。
来年もまた同じイベントで、自分の成長を確かめられるよう準備中です。

メンタルトレーニング

下を向くより上を向いた方が、元気が出やすい、深呼吸すると落ち着く‥そんな簡単なことから始められる「やる気がでる」「いざというとき120%の力を発揮できる」「あわてない」自分の心をコントロールする技術を学びました。
小学生、中学生、大人それぞれに複数回の講義＆トレーニングを実施。

異文化交流体験

とまどいを乗り越える、違いを受け入れる、自分を認める、自分のコトバで伝える‥‥そんな力をつける機会を提供しました。
中原小ﾁｬﾚﾝｼﾞ･ｷｬﾝﾌﾟ(8/23.24留学生2名)、異文化交流体験(11/1 留学生38名。手打ちうどんづくり、図書館交流など)、鷹南祭にて異文化交流ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ(8/8.留学生11名。留学生と郷土料理販売や餅つきなど)
子供たちが、最初はとまどいながら、でも、その日の最後には楽しげに交流する姿が見られました。

挑戦心、やりとげる力 協働する力の育み

成果 貴重な体験だから継続して欲しい。対象を広げて欲しい等の声がありました。

課題 本来の教育活動を妨げることなく、教育に機会を活かせるよう、学校と話し合いながら内容と運用に工夫を凝らす必要があります。

成果 昨年度末の子供熟議のテーマ「いじめのない学園を作るためにみんなができること」は発展して、今年度の児童会生徒会交流のテーマになりました。

課題 子供たちのＳＯＳに気づくにはどうしたら良いか、もっと考えなければなりません。

いじめのない学園づくり

学園あいさつ運動

育みﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでも、ＣＳ主催でもありませんが、学園3校でとり組んでいる挨拶運動に、今年もたくさんのＣＳ委員、民生委員をはじめとした地域の人が関わりました。
大人もいっしょに声かけあう姿を示すことで、見守る大人、信頼できる大人の存在を伝えたいと考えています。

2014年度は「具体的に課題解決に取り組む」のが目標。
たくさんの提案のなかから、①ひとりでも多くの人に「自分も関われる」と思ってもらえるもの、②すぐに取りかかれるもの、③〔行事日程が集中しないように〕すでに地域で行われている取り組みなどと組み合わせられるもの、④いろんな人の知恵と力が活かせること、などを考えあわせ、４つのアイディアを「生きる力育みプログラム」として実行に移しました。

次は、見なおし。そして、やり直し。
みなさんのアイディア、意見、知恵、チカラでいっしょに鷹南の子供たちの羽ばたきを見守りませんか？

はぐプロサポーターお問い合わせ：tkm.hugpro@gmail.com
または、ＣＳ委員、各校の副校長、ＰＴＡ、おやじの会、などへ。

コミュニティ・スクール委員会は、他にもこんな活動をしました。

学園・学校の経営方針のチェック
学園・学校の教育計画のチェック

学園・学校評価の分析

保護者や地域の声を聞き（評価の分析）、教育に反映していくこと（経営方針、教育計画などのチェック）は、コミュニティ・スクール委員の大切な務めです。
毎月１回の会合で、こうしたことがらについて話し合いをするとともに、学校・学園と教育目標を共有して、実現のために地域や保護者だからできること、力を活かせることについて話し合っています。「鷹南っ子ジャンプアップ・プラン」も「生きる力育みプログラム〔はぐプロ〕」もここから始まりました。

鷹南コンサート〔主催〕

11月29日〔土〕開催、東台小体育館にて。
中原小合唱団、東台小金管バンド、五中吹奏楽部が、鷹南生、先生方、保護者、地域の370人余りの聴衆を前に熱のこもった演奏を披露しました。
「年を追うごとに上達している」「レベルの高さに驚いた」「のびのびとしていて演奏も、子供たちの表情もとても良かった」「３校合同の行事は大変なことだと思うけれど、貴重な機会に感謝。」「地域としての取り組みに、子供たちを地域で育てている感じが伝わり安心した。」などのご感想を頂きました。

子供熟議〔主催〕

1月17日〔土〕開催
今回の学園評価アンケートの結果で関心が高かったのは、「子供たちの生活習慣」。早寝早起きが難しいのは、夜遅くまでスマホやゲームをしているから？
そこで、熟議のテーマを「スマホ／携帯とのつきあい方」に。
大人が考えている以上に「スマホの良いところ、わるいところ」に気づいている子供たち。この気付きを来年度の児童会生徒会交流会のテーマに取り入れていただく予定です。
今回で４回目の子供熟議、回を重ねるごとに、子供たちに発言する力、話し合いをまとめる力がついてきているようです。